

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス A nanすまいる			
○保護者評価実施期間	令和7年12月15日 ~ 令和8年1月15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	令和7年12月1日 ~ 令和7年12月20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 26日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	教育機関に長年関わった指導員が多く居ることにより、学校での教育活動の延長上の療育を行うことができる。	運動を中心に行い、体幹を鍛えることで姿勢をよくすると共に、しっかりと話を聞くことを身に付けることができる。	様々な動きを習慣させ、自分の動きをイメージできるようにさせたい。
2	教育機関に携わってきた職員が多い為、一人ひとりの学習のサポートが充実にいる。	学校から帰ってきたら、まず宿題をすること。1日のスケジュールの中に組み入れ、宿題をすることが癖づけている。	宿題を見てつまずきを確認し、一人ひとりに合わせたやり方でサポートしている。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学年が低学年から中学生が一緒に居ることに、それぞれの体力や知識に対する対応ができないない。	2分割もしくは3分割にし、それぞれの体力や知識に応じた活動を行いたい。	体育館を借りたり外での活動を増やしたい。
2	宿題の量や取り組むペースが違ったり、到着時間がバラバラの為、落ち着いて学習できる環境になっていない。	現在、使用していない部屋の活用方法を考え、落ち着いて取り組める環境を作りたい。	個別の課題室を設けるなど、集中して学習できる環境を整えたい。
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス Ananすまいる				公表日 2026年 1月26日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		運動を行うことで、外へ出る等活動の域を広げている。	個別の部屋を利用することで余裕を持たせる。
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		お出かけ等、プログラムに応じて加配している。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		トイレを男女で分けている。	室内での生活マナーを伝達していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		清掃、消毒は毎日行っている。 活動に合わせて部屋を構造化している。	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		個室をクールダウンなどに使用している。	カウセリングを取り入れたい。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		全職員に回覧し、情報を共有している。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		送迎の際、必ず1日の様子を伝えている。	連絡帳の充実を図っていく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		いつでも誰もが気付き等、意見を述べられる環境づくりに努めている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3		必要に応じて第三者の意見を聞き、業務の改善に努めたい。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1	職員間での情報共有は常に行っている。情報を共有する中で意見を出し合い、学びの場としている。	外部研修も含め、年間計画を立てる等、定期的に行っていきたい。
適切な支援の提	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		専門的な支援が必要な場合は、別に計画書を作成している。	個々の特性に応じた活動を増やしていく。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6			今後も職員間で情報を共有し、より良い支援を目指していきたい。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6			今後も支援会議を適切に行い、計画を立て支援内容を共有していきたい。
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6			
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			今後は「移行支援」「地域支援・地域連携」の分野でも、より良い支援ができるようと考えていい。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		一人ひとりの支援目的を話し合い、目的に沿った支援内容を確認し支援している。	様々な観点からの活動をプログラムとして入れたい。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6			体験学習では特に、誰もが経験できるように工夫していきたい。

供 携	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1		行っていきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1		行っていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		5領域に基づいた課題設定評価表を作成し、振り返りや次の支援の目標に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	6			
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	1		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	2	保護者様が確認して頂くようしている。	三者会議を持てるようにしていきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			児童発達支援事業所との関係を築き、つながった支援ができるように努めていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	1		該当者がいない為、今は行っていないが、該当者がいれば行っていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	1		行っていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	5	1	一緒に活動することはないが、図書館、地域の公園、児童館等の公共施設を利用している。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	1		行っていきたい。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時や連絡帳で伝えている。また、保護者様からもお子様の変化など伝えている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1		行っていきたい。
連 携	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		半年に一度、また必要に応じてモニタリングを行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		計画書に支援内容の説明書を添付し、確認後同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		その都度、相談援助を行っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	1		活動を通して保護者様も参加できる仕組みを作りたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情窓口を設け対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	1	行事の案内は手紙やLINEでお知らせしている。活動後の様子は写真や画像を送信し喜んでいただいている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各マニュアルは常に見れるよう配置している。年間計画に沿い訓練を行っている。訓練記録を作成し、回覧して周知徹底している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		年間計画に沿い防災訓練を行っている。また防災センター等に出かけ話を聞く等、体験からも学び、非常災害の備えに当たっている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		てんかんのお子様の情報を全職員が把握し、緊急連絡先や症状等を記載した内容を掲示している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		アレルギーのお子様の情報を掲示している。全職員が把握し、おやつやクッキングの内容に注意喚起している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			安全計画をホームページで確認できるよう掲載する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6			